

Unit9.Managing CLIL in schools
From putting CLIC into Practice
by Ball ,Kelly and Clegg(2015)(PP247-266)

Summary by Naoko Kotani

J-CLIL at Waseda University

February 3

CLIL教育のマネジメントについて

効果的なCLILの活用に関して学校全体での取り組みが必要と考えられる。

- ・科目の選択、担当教員、コース設計、対象生徒
- ・評価や教材の準備、上層部を含む関係者間での調整等

科目の選定について考慮すべき点

- ・担当教員のL2の能力を考慮する必要がある。
- ・科目の特性によりL2での教えやすさは異なる。
(美術は視覚的に訴えられる事柄が多く、比較的L2で教えやすい。)
- ・L2の中級者向け教材があるかどうか。
- ・担当科目教員と語学教員の協力関係が築けるかどうか。

コース設計 I

- CLILプログラムの期間や時間を決定する。
- 短期コース:部分的にL2で行われる。語学教育主導型が多く、語学教師と協力して行われる場合が多い。
- 長期コース:1年以上フルタイムで行われる。L2の能力が高い科目教員が担当し、CLI指導法による継続教育が必要とされることもある。学校側は生徒の語学レベル、教材、評価について考慮する必要がある。

コース設計 II

・他のプログラムやCLILが行われる学校のイニシアティブによってタイプが異なる。

(語学教育が並行して行われる、2つの言語を使用可能とする、科目教員と語学教員の協力等)

CLILタイプ1:科目教員と語学教員が異なるクラスを担当し、いずれもL2で授業を実施する。語学教員は一般的なL2レベルを向上させるため授業を実施する。

コース設計 III

CLILタイプ2: 語学教員と科目教員は異なるクラスを実施し、いずれもL2で授業を実施する。語学教員は科目のための授業を実施する。

CLILタイプ3: 語学教員と科目教員は同じクラスを担当し、科目教員はL1で授業を実施し、語学教員はL2で授業を実施する。

CLILタイプ4: 語学教員と科目教員は同じクラスを担当し、全てL2で授業を実施する。

コース設計 IV

- CLILタイプ5:科目教員がL2で書かれた教材を基にL1で授業を実施する。
- CLILタイプ6:科目教員はL1で話すが、読み書きや生徒の話をL2で理解できる。生徒は教員の話をL1で聞いているが、読み書きL2で話すことが可能。
- CLILタイプ7:科目教員が全てL2で授業を実施する。

担当教員

- ・L2で科目教育を実施し、特に長期間にわたる場合には教員はL2の能力とCLIL指導法に関する知識について考える必要がある。

- 科目特有の言語

- 広く使われている学術言語

- 語学教育

- ・生徒のL2レベルについて考慮しなければならない。教員のL2レベルが高く、生徒のL2レベルが低い場合CLIL指導法を学ぶ必要があるだろう。

学習対象者 I

- ・生徒のL2能力が高いほうが科目学習が効果的に行われるが、そうでない場合はCLIL指導法の導入により語学学習と科目学習が両立できうる。
- ・学習者のL2レベルが高くない場合でも、科目知識があり学習意欲が高い場合はL2による科目学習が可能になりえる。

学習対象者 II

- 学校側はどのようにCLILを実行していくか選択することができる。



- L2レベルによる学習対象者の選定
- CLIL実施のための語学教育の実施
- L2レベルの向上を目指している生徒を対象とした科目担当教員によるCLILの実施

評価について

- 担当者間の専門性が期待される。
- 学習者にとって公平で信頼性のある評価を実施することは難しく、CLILの弱点でもある。
- テストを含む評価プロセスもL1で行われる授業のように学習者、教員、保護者に対して透明性が求められる。

CLIL指導法 I

- L2で科目教育を実施するためには、CLIL指導法の導入が求められる(特に学習者のL2レベルが中級レベルである場合)。
- CLIL指導法によりL2での内容理解が促されることが期待される(内容理解のための話し方の工夫、視覚的に訴える資料やリスニングやリーディングのタスクの導入等)。

CLIL指導法 II

学校側ができること

1. 専門性を高める継続教育(CPD)の実施
2. 実績のある学校との協力
3. 学内でのCLIL担当教員同士の協力

教員の課題

- ・L2で生徒が科目内容について話すことができるようにすること
- ・L2で科目内容の評価をすること

語学教育 I

- CLIL実施のための語学講座(教員、学習者対象)



- 語学教員の多くはL2によるコミュニケーションのための訓練を受けており、科目教育のための訓練を受けているわけではない。
- 科目教員と語学教員の共同作業も必要となってくる。

語学教育 II

- CALP: Cognitive Academic Language Proficiency

(認知学術言語能力: 学術分野で使われる4スキル) は多くの教員にとって新しい内容となるだろう。

- 科目学習のための語学教育



- CLIL実施のための語学教育シラバスが必要
- 教材の準備も必要となってくる

語学教育 III

- 科目内容について完全に理解しておく必要はない。
- 教員同士の協力が求められることや、伝統的な語学教育が減少するのではとの懸念もあるが、CLIL実施により教員の専門性が向上することも多い。
- CLIL教育の計画段階から実施にかけて語学教員が参加し、学校全体の取り組むとすることが求められる。

専門性を高める継続教育

- CPD (Continuous Professional Development)のための教育を実施している機関は少ないが、ドイツやスイスではINSETTやITEで実施されている。
- 個々の学校においてボトムアップでCLIL指導法が発展していく傾向がある。
- 科目教員や語学教員のニーズに焦点が当てられるべきだろう。

Resourcingについて

- CLIL用に作られている科目教材はほとんどなく、教材の準備が重要となってくる。
- ネイティブ用の科目教材を活用する際には、内容理解を促すCLIL指導法の活用が必要な場合もあるだろう。
- CIIL用教材が教員自身が作成する場合時間を要することになるが、ネット上などでCLIL用教材が共有されることも多い。

その他の言語教育

- ・欧州諸国では移民向けプログラムとしてL2教育とL1による科目横断的語学教育がある。
- ・移民向けプログラムでは専門スタッフが学習者及び教員の支援にあたり、学校全体での取り組みが成されている。
- ・科目横断的L1による学習は、CALPの中級向けプログラムの初めの段階で実施される、語学関連の内容で行われることも多い。

関係者 I

・教育委員会：政策や様々な支援、資金援助、CPDの提供などを行う場合もある。CLIL教育を実施する際には、対話や交渉などを行うことも必要となる。

・保護者：CLIL教育の効果に理解のある保護者である場合、中学でのCLIL教育の推進力となりうる。そうでない場合は、保護者に対して説明を行う必要がある。

関係者 II

- ・教員：科目教育及び、L2での科目教育を行えるスキルは学校にとって有益であり、学校により評価され、教員が必要な支援を受けられる体制が求められる。

- ・学習者：最も重要で、自発的にCLIL学習に取り組むことが重要だと考えられる。

モニタリングと評価 I

- ・CLIL教育評価のための基準を定義することは難しい。CLILの内容によって目的も異なるため、評価基準も内容や目的により異なる。

- ・オランダではバイリンガル教育がthe European platformによって評価されている。

モニタリングと評価 II

(例) L2で行われる授業の割合、生徒の語学レベル、科目内容の習熟度、スタッフ、テキスト、指導法について

- ・学内評価として考えられる項目：科目習熟度、学習者の語学レベル、教員のCLIL指導法と語学力について、教材の適切性、トレーニングの効果、評価の適切性、学習者がスムーズにCLIL学習の取り組めているか、保護者に対する情報共有が成され満足しているか等が挙げられる。

学校全体での取り組み

- ・教員同士の交流が求められ、ボトムアップでインフォーマルな事柄も多いため、学校側は上層部でのマネジメントが必要となってくる。
- ・CLIL教育発展のために積極的な学校では、目的、方法、効果等を織り込んだ計画策定にも意欲的に取り組んでいる。